

作成年月日	平成16年2月9日
作成部局 課室名	教育委員会事務局 文化財室

## 県立考古博物館（仮称）基本計画の策定について

### 報告事項：県立考古博物館基本計画の策定について

県立考古博物館（仮称）の整備について、平成14年度のパブリックコメントを反映して策定した基本構想を踏まえ、基本計画をとりまとめた。

#### (1) 策定の経緯

- 平成14年12月10日～1月9日 パブリックコメントの実施
- 平成15年2月17日 第3回基本構想策定委員会
  - 3月17日 政策会議付議（基本構想公表）
  - 3月18日～ パブリックコメント結果公表
- 平成15年7月28日 第1回基本計画策定委員会
  - 8月29日 第2回基本計画策定委員会
  - 9月26日 第3回基本計画策定委員会
  - 11月26日 総合事業等審査会
- 平成16年1月29日 第4回基本計画策定委員会

#### (2) 県立考古博物館（仮称）基本計画の要旨

先人たちの「知恵」と「生きる力」への「驚き・発見・感動」を身近な歴史文化遺産への関心へと結びつけ、21世紀における新たな「ひょうご文化」の創造に寄与することを基本理念として、「体感できる」「学べる」「現場へと誘う」「探究する」の4つの役割を果たすため、県下全域で活動する新しいスタイルの参加体験型博物館として、播磨大中国古代の村（播磨町）隣接地に埋蔵文化財調査事務所と一体に県立考古博物館（仮称）を整備する。

（詳しくは県立考古博物館（仮称）基本計画を参照）

#### (3) 今後のスケジュール

- 平成16年度 基本設計・実施設計（プロポーザルによる設計者選定を予定）  
建設予定地発掘調査
- 平成17・18年度 建築工事・展示工事
- 平成19年 開館（時期は今後協議）

# 県立考古博物館（仮称）基本計画（要約）

## 計画条件の整理

兵庫県には全国有数の25,000箇所以上の遺跡が分布し、毎年のように重要な発見が相次いでおり、県民から出土資料の公開・展示を望む声が高まってきている。また一方で、社会の成熟に伴い、地域活性化の資源として地域の歴史文化遺産が見直され、これを活用するための新たなシステムづくり求められている。

## 基本的な考え方

### 1 基本理念

考古博物館(仮称)は、県民が本物の遺跡・遺物にふれることによって得た、先人たちの「知恵」と「生きる力」への「驚き・発見・感動」を身近な歴史文化遺産への関心へと結びつけ、地域文化を再発見するきっかけをつくり、地域文化に根ざし、愛着と誇りがもてる21世紀における新たな「ひょうご文化」の創造に寄与することを基本理念とする。

### 2 整備方針

県立考古博物館（仮称）の整備は、単なる施設としての博物館づくりではなく、施設を核とした歴史文化遺産活用のあらたなシステムづくりを目的とする。すなわち県民が地域の歴史文化遺産への理解を深め、地域文化への愛着と誇りを高めるきっかけをつくり、さらに地域において歴史文化遺産の保護活用の主役として活動をおこない、地域の活性化に貢献できるシステムの構築を目指すものであり、県立考古博物館（仮称）はそのシステムの埋蔵文化財分野における兵庫県の中核施設として「ネットワーク」「体験・思考」「変化・成長」をキーワードに整備する。

### 3 役割

県立考古博物館(仮称)は、基本構想を踏まえた次の4つの役割を基盤に、「考古博物館“環”ひょうご」の中核拠点として、県下全域に博物館活動の環を広げ、それを支える役割を果たす中で、県内各地での県民の歴史・文化学習活動を育み、新たな地域文化の創造と愛着と誇りに満ちた地域社会の形成に寄与することをめざす。

#### 「見る・試す・感じる」 体感できる博物館

「驚き・発見・感動」をコンセプトに、考古学が明らかにしてきた地域文化を素材とし、館内にとどまらず、県内各地で双方向的な展示・体験学習を実施し、地域文化を体感できる博物館としての役割を担う。

#### 「学ぶ・考える」 学べる博物館

生涯学習・学校教育との連携により、展示・体験学習で得られた経験をさらに深め、地域文化への理解と関心を高めるための学習活動を支援し、県内各地で地域文化の保護・活用を担う人材を育成する役割を担う。

#### 「行く・見つける」 「現場」へと誘う博物館

県内の史跡公園や考古資料を収蔵する資料館等をネットワーク化することにより、博物館を遺跡・遺物が埋蔵される「現場」へ直結させ、来館した人々を地域文化に満ちあふれる「現場」へと誘う役割を果たす。

#### 「結ぶ・広げる・支える」 県下全域で活動する博物館

県立考古博物館(仮称)に集積される資源(人・資料・情報等)を基盤に、県内各地で双方向的な展示・体験学習・学習支援事業等を実施するとともに、こうした広域的な活動を支える人材の育成・研修や各種事業ツール・プログラムの企画・開発を行うなど、「考古博物館“環”ひょうご」の中核拠点としての役割を果たす。

#### 「調べる・創る」 探究する博物館

祖先が残した貴重な歴史文化遺産である遺跡・遺物等を素材に、県民の参画と協働による最先端の調査・研究を行い、兵庫県における地域文化の成り立ちを探究するとともに、新たな地域文化を創造する役割を担う。

---

## 事業活動計画

---

### 1 基本方針

県立考古博物館(仮称)は、「驚き・発見・感動」をコンセプトとし、県民の「参加・体験」を軸に活発かつ多彩な事業活動を展開する。

### 2 展示事業

祖先の歩みについて考え、その「知恵」と「生きる力」への「驚き・発見・感動」を身近な歴史文化遺産への関心や地域文化の再発見・創造へと結びつけるきっかけとして、考古学が解き明かした兵庫県の地域文化の成り立ちとその特色を物語性豊かに伝えるとともに、発掘・発見の喜びと歴史の謎解きの楽しさに満ちたロマンあふれる考古学の魅力や日々発展する考古学研究の最前線を伝える展示を展開する。

### 3 体験学習事業

来館者の驚きや感動、疑問を体験的に深め新たな学習の契機とするため、古代技術を実際に体験してみる「古代体験」プログラムや発掘調査等の考古学の調査・研究プロセスを体験する「考古学体験」プログラムを館の中核的事業として企画・実施する。

### 4 学習支援事業

多様な学習機会を提供して県民の生涯学習活動を支援・振興する事業を展開し、博物館の運営企画に参画するボランティアや地域における歴史文化遺産保護・活用のリーダーとして活躍できる人材育成に力を注ぐ。また学校教育の支援を積極的に推進し、学校(教員)と博物館(学芸員)が互いの理解を深め、相互の特性・専門性を生かした活動を展開する。

### 5 調査研究事業

兵庫県における地域文化の成り立ちを明らかにし、展示や体験学習などの博物館活動を通じて新たな地域像を創造・発信するための基礎的な情報を得るために、考古学を中核とした総合的・学際的な調査研究を市町や大学、民間団体など外部の機関と共同で実施する。

### 6 収集保存事業

兵庫県の地域文化を特徴づける、県内各地から出土した考古資料を系統的に収集し、適切に保存・管理する。また、県埋蔵文化財調査事務所と協力して、金属製品・木製品等の保存・修理を実施する。

### 7 史跡公園・資料館等ネットワーク事業

県内各地に点在する史跡公園や考古系資料館、学校や家庭など、さまざまな場所をネットワーク化し、県下全域で博物館活動を展開する。史跡公園をはじめ、県内に2万5千以上存在するすべての遺跡、県内の考古系資料館を博物館のサテライトと位置づけ、館外活動の拠点として積極的に活用する。

### 8 広報・情報発信事業

博物館の活動について県民をはじめ、全国、全世界に情報を発信し、考古学の楽しさや魅力を伝え、歴史文化遺産の保存・活用を促進するとともに、博物館利用の促進を図るため、各種出版物の発行、各種媒体を活用した広報宣伝、情報発信システムの構築をおこなう。

### 9 ショップ・カフェ事業

考古博物館ならではの独自性あふれる商品やメニューの開発に努め、ミュージアムショップやカフェで提供することにより、この博物館独自の体験を創出する。

## 展示計画

	テーマ・内容
映像展示	ようこそ考古楽ワールドへ
ガイダンス展示	私たちのまちの遺跡
ガイダンス展示	考古学を知る
テーマ展示 「人」	私たちの由来
テーマ展示 「環境」	自然とのかかわり
テーマ展示 「社会」	国家形成への道のり
テーマ展示 「交流」	みち・であい
企画展示	発掘調査の速報展等
収蔵展示	県内出土の基準となる資料を集積した「兵庫基準資料選」
	コンテナに山積みした一般収蔵庫による「考古の森を歩く」
屋外展示	屋外露出展示・遺構展示・環境展示・生活再現展示
ネットワーク展示	移動ワークショップ・史跡公園ガイダンス・学校教育への学習教材の支援

## 施設計画

考古博物館は施設単体で完結するものではなく、県域に広く連携したネットワークの拠点として位置づけ、次の基本方針により計画する。

- (1) 大中遺跡・周辺景観との一体化による快適な環境計画
- (2) 利用者の視点にたったフレキシブルな空間計画
- (3) 施設の維持管理を考慮した効率的な施設構成
- (4) ネットワークの中核としての施設計画

### 考古博物館

	施設等	面積 (㎡)
展示部門	常設展示室・企画展示室・視聴覚コーナー	1,550
体験学習支援ネットワーク部門	体験学習室・講堂・ボランティアルーム・考古学情報プラザ	990
調査研究部門	研究室・書庫・資料整理室他	240
収集保存部門	収蔵庫(特別)・一時保管庫・トラックヤード・荷解場・その他	460
管理運営サービス部門	館長室・次長室・応接室・事務室 会議室・スタッフ室・ミュージアム ショップ・カフェ・機械室その他 共用部分	2,190
考古博物館合計		5,430

## 埋蔵文化財調査事務所

	施設等	面積 (㎡)
管理部門	所長室 事務室 O A 室 調査員室 共用部分	6 4 0
遺物整理部門	遺物整理室 写真撮影室 金属器保存処理室 仮収納庫 器材庫	8 5 0
収蔵部門	写真図面保管庫 収蔵庫	1 , 4 5 0
埋蔵文化財調査事務所合計		2 , 9 4 0
		施設全体 8 , 3 7 0 ㎡

### 情報システム計画

#### 1 基本方針

県内各地に点在する史跡公園や遺跡、家庭や学校等をネットワーク化し、県民誰もが、いつでも、どこでも博物館の資源（資料・情報等）を活用でき、館の活動・運営に参加できる「考古博物館「環」ひょうご」の創造をめざしコンテンツ開発・システム整備等を推進する。

#### 2 考古博物館（仮称）の核となる「考古学情報プラザ」

考古博物館（仮称）の核として展示や体験学習と相互連携をもつとともに、ユビキタスマュージアムを実現するセンターとして館内に「考古学情報プラザ」を整備する。

### 管理運営計画

#### 1 基本方針

県民誰もが、いつでも、どこでも参加・体験できる真に開かれた博物館として、館スタッフ（主）と利用者（客）という主客区分を見直し、両者ともに博物館活動の参加者、運営者であるという姿勢を基本に、管理運営にあたる。

#### 2 運営形態

県立考古博物館(仮称)は、兵庫県教育委員会が管轄する社会教育施設と位置づけ、展示や体験学習、学習支援事業の企画・実施など、館の基幹的業務については県の直営とし、清掃や警備、機械設備の保守・点検等の施設維持管理業務、ミュージアムショップやカフェの経営等については、外部委託や施設貸しで対応し、業務の効率化や組織・職員の合理化を図る。

#### 3 運営組織

館長等の役職員や庶務・経理等を担当する事務職員のほか、考古学や博物館学、教育に関する専門知識・技術をもつ学芸員等、司書、館ホームページの運営や各種データベース・情報システムの管理・開発を担当する専門職員等を配置する。

#### 4 組織体制

組織は総務部門・広報部門・学芸部門・学習支援部門の4部門編成とし、事業の企画・実施等にあたっては、学術研究と教育・学習支援を有機的に結びつけるため、事業ごとに横

断的なプロジェクトチームを編成するなど、機能的かつ弾力的な組織運営を行う。

また博物館運営に関する諮問・評価機関として、博物館の調査研究活動推進にあたっての専門的な指導・助言を受ける考古学等の学識者による調査研究委員会と、博物館の各種事業活動や運営に関する指導・助言を受ける、博物館学、教育学、行政経営等に関する学識者や教育関係者、マスコミ関係者、県民や考古学者代表等で構成する運営協議会を設置する。

## 5 開館形態

基本的に週1日の休館日（毎週月曜日等）を設けることとするが、学校の長期休暇中については、可能な限り開館するよう努める。また、開館時間については、季節変動を設けるなど、立地環境に考慮した上で利用者のニーズ等に合わせ、これまでの博物館の例にとらわれない柔軟な開館日時を検討する。特に、考古学情報プラザやカフェ・ショップなどパブリック・スペースのオープン時間帯については、展示室よりも時間を延長し、9:00～18:00等柔軟に対応することを検討する。

観覧料金は他の県立博物館と同様、展示の観覧料金は基本的に有料とするが、誰もが気軽に利用できる適正な料金設定や各種事由による減免措置を検討するとともに、展示室以外については、基本的に無料で利用できる施設とする。

## 6 利用者サービス

新しい博物館として県民誰もが身近に感じ利用できるように、団体、外国人、高齢者、身障者など様々な利用者を想定したきめ細かい対応を検討する。